

令和5年度第2回春日井市いじめ・不登校対策協議会

1 開催日時

令和6年3月14日（木曜日）午後3時から午後4時20分

2 開催場所

市役所9階 教育委員会室

3 出席者

委員 願興寺礼子、伊藤治彦、山口 力、窪野明子、横井隆一、神戸研人、稲垣拓馬、野見山日向、吉田 眞、今井裕次、吉田勝俊、酒井はるみ

教育長 水田博和

事務局 西野正康、大城達也、加藤喜英、石川和男、山崎俊介、渡辺えみ、三浦敬一郎

代理出席者 吉田啓介（登校支援室指導員）、疇地正人（登校支援室指導員）

欠席者 安藤 透、杉浦 誠

4 議題

- (1) 令和5年度いじめ・不登校対策協議会事業報告
- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

5 議事内容

- (1) 令和5年度いじめ・不登校対策協議会事業報告

【事務局】 資料に基づき説明

- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

【会長】 いじめ・不登校対策部会事業の研修への参加者について教えて欲しい。

【事務局】 経験が浅く、いじめ不登校の対応に慣れていない1, 2年目の教員や生徒指導に携わる教員が参加することが多い。

【委員】 いじめ匿名連絡サイト（以下スクールサイン）において452件の相談に対して、いじめ認知が21件となっている理由について教えて欲しい。

【事務局】 452件の相談のうち、先生への不信感や指導への不満等、いじめと関連しないものの、投稿内容から該当する生徒を特定できないもの、本人に代わり、友人が心配して投稿したものの、学校が本人に聞き取りを行ったが、いじめに該当しなかったもの等、いじめに該当しないものがあった。分析はこれからとなるが、相談件数に比べて認知件数が少ないため、各校に実態を伝え、いじめ認知について研修等で理解を深めていきたい。

【会長】 春日井市の登校支援室の効果と今後の課題について教えて欲しい。

【委員】 令和5年6月時点の利用者は市内全校で176人。令和6年2月時点では269人となっており、今後も利用者は増加していくと予想される。春日井市内の全中学校に登校支援室が配備されて2年が経過し、学校同士で情報共有が進み、指導が充実した。不登校に対する教員の意識の向上も感じられ、今後は未然防止等、更なる成果が期待される。

【委員】 登校支援室の課題について、1点目は支援室を利用している生徒に対して支援員に任せきりになってしまい、生徒と先生のコミュニケーションが不足していることが挙げられる。2点目は進路の問題で、支援室を利用していた生徒が全日制の高校へ進学した場合、1年以内に退学するケースが多いことである。支援室に在籍していても、学校全体で積極的に関わり、相談の時間を個別に取ることでよりよい学校生活、進路選択に繋がるものと感じる。

【 会 長 】 教育支援センターあすなろの状況について教えて欲しい。

【 副 会 長 】 最近は小学生の相談が増えている。教室に適応できない、人間関係が築けないといった相談が多い。小学生は進路に関わることが少ないので、学校だけでなく、子どもにあった学びの場を見つけてあげたいと願う保護者も多いことから、小学生の相談が増えていると感じる。小学生の利用者が増えたことであすなろの利用が長期化するケースが増えており、学校に復帰できる児童・生徒はほとんどいない状態になっている。そのため、小学校と中学校との連携が大切になっていると感じる。

一方、中学生は登校支援室が全校に配備されたことで、学校に相談が入ることが増え、あすなろへの相談件数は減少している。以前はあすなろを利用している中学生は通信制高校を受験することが多かったが、中学校が学びを保障し、継続して勉強できる機会を設けたことで、最近は公立や私立の全日制高校等、進路の幅が広がっていると感じる。

【 会 長 】 不登校やいじめについて学校で取り組んでいることについて教えて欲しい。

【 委 員 】 中学校では一例として、不登校について毎週校務主任、生徒指導主事、各学年の不登校担当、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが参加してケースについて協議している。そこから支援策を検討し、結果を学年の先生と共有するが、学年内で共有し、話し合う時間を確保することができず、実際に動くことが難しいことが課題である。

いじめについては生徒や保護者からの相談、教育アンケート、スクールサインから相談が入ることが多い。予防策として年1回ネットモラルについて全校で動画を観る時間を設けている。また、学校内で相談しやすい環境を作り、生徒たちのサインを見逃さないよう注意している。課題としては気になる生徒に声を掛けて大丈夫と言われるとそこからしっかりと話しを聞く余裕が教員にないことである。

【 委 員 】 小学校では人間関係や感覚過敏など様々な理由で不登校になっている児童がいる。2日休んだら必ず家庭連絡を行い、家庭訪問やリモートで授業を行うことで学校と児童、保護者との関係を切らさぬよう注意している。しかし、リモートの授業は、家で授業が受けられることで逆に学校へ足が遠のく可能性があり、見極めが重要だと感じる。

いじめについては早期発見のために毎学期、教育アンケートや児童への聞き取りを行っている。把握したいじめについては全職員で共有し、対象児童への指導だけではなく、学年集会を開いている。また、昼の放送で放送委員会の児童と番組を放送し、身近な話題を取り上げて児童が理解しやすい形でメッセージを出し続けている。

【 会 長 】 いじめ不登校相談室のいじめ相談について特徴や学校の対応について教えて欲しい。

【 委 員 】 相談は小学生が減り、中学生が増えている。小学校1年生の保護者から、幼稚園では、わからないことは先生に聞くようにと言われていたが、小学校では自分で考えるよう言われたという相談があった。幼稚園、小学校共に間違った対応ではないが、両方のギャップを埋められればと感じる。また、いじめについては、相談をした保護者から学校に相談しても対応してくれないというものがあつた。いじめの対策では、被害者の保護を重視し、学校が被害者を守るという強いメッセージを出すことが重要である。最近辛い時は休ませることが保護者の中でも浸透してきている。だが、休ませても先が見えないことから、保護者は不安や焦りを感じている。そのため、ただ休ませるのではなく、そこから一歩踏み込んだ支援の必要性を感じる。

【 会 長 】 保健室でのいじめや不登校の相談状況について教えて欲しい。

【 委 員 】 保健室に来室する生徒でいじめや不登校について訴える生徒は少ない。気持ち悪さや倦怠感といった身体症状を訴え、来室する生徒が多いため、問診の中で悩みや困りを探り、生徒たちの気持ちを把握している。

また、不登校の生徒については無理に聞き取りをせず、また保健室に来てくれ

るよう次の来室に繋がることを心がけて接している。中学生は小学校での人間関係のこじれを解決できずに入学する生徒がいる。そのような話を聞き取った際は校内で情報共有し、場合によってはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに繋ぎ、学校全体で対応している。

【 会 長 】 スクールカウンセラーの立場でいじめや不登校で気になることについて教えて欲しい。

【 委 員 】 フリースクール等、学校以外の学びの場が増える中で、学校に行く意味がないと考える保護者が増えている。時代が変わってきている中、学校にも多様な学びの機会を取り入れる必要があると感じる。

不登校については子どもにより状況が違うので、数字だけでなく子どもそれぞれの状況を見ることが重要である。

また、先生のメンタルヘルスは子どもにも影響を与えることから、先生が元気でエネルギーがある状態を保つことも重要である。

【 会 長 】 ホームフレンド活動について教えて欲しい。

【 委 員 】 ホームフレンドは教員を目指す学生ボランティアとともに家庭訪問を行い、保護者の相談を聴き、子どもとは遊びや勉強を教える活動をしている。令和5年度は5人の子どもから始まり、今年度は12人の子どもを支援した。その内2人は年度内に登校を再開し、支援を終了している。終了したケースでは学校、保護者、ホームフレンドが足並みを揃えて支援ができたことが登校に繋がったが、それ以外のケースでは登校を迫ったり強く背中を押すことは控えているので、多くのケースは不登校のままになっている。

メタバースについては支援を終了した2人を除いた10人のうち、2人が参加しており、毎日アクセスしている。

【 会 長 】 春日井法務局の取り組みについて教えて欲しい。

【 委 員 】 法務局では人権擁護機関として子どもの人権を重点事項として取り組んでいる。人権 SOS ミニレターは学校におけるいじめや体罰、家庭内の虐待などの問題に対して全国の小中学生に封筒と便せんを配布し、相談内容を書いてポストに投函すると最寄りの法務局に届くというものである。ミニレターを通して先生や保護者にも相談できない子どもの悩みを把握し、学校や関係機関と連携を図りながら子どもの人権問題の解決に当たっている。令和5年度は春日井市局管内の春日井市、瀬戸市、小牧市、尾張旭市の小中学校から51通のミニレターが届き、人権擁護委員が返答している。毎年、一定数の相談があるため、引き続き啓発活動や相談活動に注力していく。

【 会 長 】 市内の警察の対応で子どもに関わるものについて教えて欲しい。

【 委 員 】 学校に関する相談では不審者に関する相談が最も多い。次に多いものが学校内での喧嘩となっている。次に補導については、令和5年中に1821件補導が発生している。そのうち、深夜徘徊が1256件であった。補導後、保護者に連絡をしているが、保護者が警察からの連絡を拒否している事例がある。保護者が子どもに関心がなく、家に居場所がないことが深夜徘徊に繋がり、行き場をなくした子ども同士が集まり、居場所として暴走族を結成することもあるので、注意していきたい。

【 会 長 】 全体を通して質問はあるか。

【 委 員 】 あすなろの相談で女子生徒が多くなっていると聞いたがその理由について教えて欲しい。

【 副 会 長 】 詳細に調べてはいないが、女子生徒は男子生徒に比べて人間関係の悩みを抱えやすいように感じる。

【 委 員 】 昨年12月に他の自治体でいじめを受けていた子どものサインに先生が対応しなかった事例があった。学校にも事情はあるかと思うが、保護者の立場からすると、子どもからのサインはしっかりと受け止め対応して欲しい。

子どもがサインを出せる場としてスクールサインがあるが、年間で452件のサイ

ンを受理していると聞き、件数が多く対応できなくなることを懸念している。

【事務局】 スクールサインの投稿があった学校には、その対応や報告を求めている。いじめられた子ども本人から大丈夫と聞き取ったケースについても、問題が解決されていない可能性もあるため、より深く子どもに関わっていきたい。

【委員】 保育園において環境は大きく変わり、登園を渋る子どもが増えている。子どもたちの遊びの環境が変わったことが最大の要因と思われる。今、ネット環境が整っており、動画の視聴やオンラインのゲーム等、一人で完結する遊びが主体になり、他の人間と関わる環境が少なくなっている。そのため、保育園や学校より家が楽しいと感じる子どもが増えていると感じる。

また、少子化も不登校に影響を与えていると感じる。学校によっては1学年1クラスとなり、小学校の場合、6年間同じ子どもと過ごさなくてはならない。1度仲間外れになってしまうと卒業まで学校が辛くなってしまう。この状況を変えることができれば子どもたちが登校しやすくなると感じる。

【会長】 教育の世界も様々な家庭、多様な子どもたちに対応していくため、一人一人に丁寧に関わっていくことが重要である。今後も予測困難な時代を生きる子どもたちのために不登校、いじめ問題に取り組む必要がある。

上記のとおり、令和5年度第2回春日井市いじめ・不登校対策協議会の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和6年6月21日

春日井市いじめ・不登校対策協議会
会長 願興寺 礼子

副会長 伊藤 治彦